

# 奈良県における障害児教育歴史とその人物 (盲聾学校歴史)

山中 照章\*1

\*1 近畿聾史研究グループ

## 1. はじめに

今回のテーマでの研究論文発表は、「聾歴史」の幅を少し広げ、「障害児教育の歴史」に着目し、発足から現在までどのような歴史と人物が関わってきたか研究した内容です。私の地元、奈良県立ろう学校を含め奈良の障害児教育はその昔、愛知や大阪など他府県からの影響が大きく、その力で発展してきました。今回はその過程と発展について発表します。

## 2. 沿革史

### 【江戸時代】

江戸時代末聾需の谷三山(1802~1867)  
樞原の八木町生まれ。家塾興譲館を開設。

### 【創立以前】

明治33年 奈良県教遅れて教育委員会において、機関誌「盲聾教育」について、論説を載せた。

明治36年 東京盲聾学校長小西信八氏を招いて講習会を開いた。場所は不明。

明治38年11月14日 「本県師範学校附属小学校に盲聾教育の施設ヲ設置スルコトニ関する建議」を奈良県知事に提出したが実施は至らなかった。

### 【旧盲学校時代】

大正9年3月31日 山田安民氏より出資で私立奈良盲聾学校創立

初代校長 小林卯三郎氏(盲人)

大正9年4月22日 盲人4人にて、最初授業を開始した。(盲学校の創立記念日)

大正13年6月1日 盲学校令の発令実施によって学則を変更し、私立奈良盲学校と改称した。  
(大正12年8月29日「公立私立盲学校及び聾学校規定」)

大正14年4月1日 校主山田安民氏を退いて、天理教中山氏が校主となり、県立代用校奈良盲学校を改称。

### 【聾学校時代】

昭和6年3月20日付 私立から県立移管を奈良県公布。

同年4月1日 奈良県立盲聾学校を改称

同年4月22日 聾部6人にて、最初授業を開始。(ろう学校の創立記念日)(写真1)

同年11月20日 初代校長吉田角太郎氏任命。

奈良市で新校舎落成ため移転し、最初授業を開始。(※1)(写真2)

(昭和7年10月10日新校舎落成ため移転し、最初授業を開始)(※2)

昭和24年4月1日 盲・聾分離し、奈良県立奈良ろう学校を改称。

昭和29年3月31日 初代校長吉田角太郎氏退職

昭和43年 大阪万博開催ため、奈良市の都市計画による移転を必要となった。

昭和44年4月1日 大和郡山市で新校舎落成ため移転。(写真3)

同時、奈良県立ろう学校を改称。



写真1

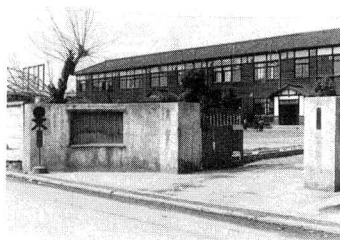


写真2



写真3

### 3. ろう学校教諭

吉田校長（昭和6年から29年）



名古屋市立盲啞学校時代、橋村徳一氏から影響を受け口話教育を実践。奈良盲啞学校でも口話教育を指導。発音練習ばかりでなく、実相教育もやっていた。新しくリズム教育を考案。太鼓の振動音で音を響かせながら身体を動かしたり、発音のアクセントの練習をされた。当時の日本の口話教育の学校からは注目されていた。校舎の隣にある盲部がその音や声に「やかましい！！」「勉強が出来ないぞ！！」など苦情が絶えなかったと言うエピソードが残っている。

手話法の大阪市立ろう学校、高橋潔校長と口話法の吉田校長が1年間わたって朝日新聞紙上（発行年不明）で何についてかも不明ではあるが論争した、と資料に残っている。

吉田校長について、その当時在学であった卒業生に聞いてみたが、「口話教育は厳しかったと記憶にあるが、個人的には話をしたことがない」や「教育現場以外のプライベートな部分は全く知らない」と答える人が多くいた。

吉田校長の著書の中では発音に関するものやろう者に関するものが多い。

昭和11年発行の聾啞年鑑の名鑑にも載っている。教育面以外のところでは、不明なところも多く資料もあまりない。

#### 【吉田角太郎氏の略歴】

- 明治23年1月10日 愛知県中島郡祖父江町で生まれる。
- 明治38年 祖父江町立尋常高等小学校卒業検定により高等小学校本科正教員免許
- 愛知県丹羽郡千秋尋常高等小学校代用教員
- 明治43年8月18日 愛知県丹羽郡千秋尋常高等小学校訓導
- 明治44年10月19日 愛知県丹羽郡大口第1尋常高等小学校訓導
- 大正8年 東京聾啞学校師範科卒業
- 大正8年8月25日 愛知県名古屋市立盲啞学校訓導
- 大正15年11月8日 私立横浜聾啞学校院長任ず
- 昭和6年3月31日 奈良県立盲啞学校訓導に任ず  
(転任を惜しんで学校の父兄達が留任運動の為に、奈良県に来るのは遅れた。)
- 昭和6年11月20日 奈良県立盲啞学校校長に任ず(盲部兼聾啞部)
- 昭和24年4月1日 奈良県立奈良ろう学校校長に任ず(盲・聾啞・分離)
- 昭和29年3月31日 奈良県立奈良ろう学校退職願に依り本職より免ず(64才)

### 登 八郎先生（昭和21～25年）

吉田校長から実相教育の影響を受けたと言われている。実相教育を大阪口話学校、淡路口話学校に教育を伝えた。音楽教育を得意とし、聾啞者に指導するのがとてもうまい。それまで聾啞者には「音楽教育は無理」と言われてきた考えを覆した。酒豪は有名だったが、教育面は熱心で、兵庫県立淡路口話学校、大阪府立堺聾学校と初代の校長となった。

### 児玉鈴子先生（昭和9年から16年）

名古屋盲啞学校校長橋村氏の2女で、教諭となって、奈良県に赴任。父・橋村校長の教えを守り、奈良でも口話教育を実践した。その後広島県立盲啞学校へ赴任。当時（昭和36年）の住所は広島県の在住であった。

### 4. 盲学校の関係

山田安民氏



奈良県身体障害児教育の創始者

明治元年2月1日宇陀郡池上村（現宇陀市榛原区）生まれる。

明治32年製薬会社「山田安民薬房」を興して胃薬の製造販売を成功。

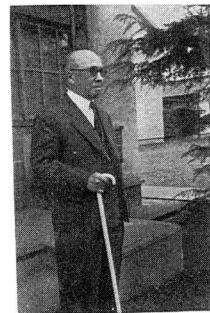
明治41年目薬「ロート目薬」製造にも成功。やがて、障害児、とりわけ盲、聾啞の教育に向けていく。

大正9年3月氏は私財を投じて、奈良県最初の盲啞学校を創立

大正14年4月校主を退く。

昭和18年4月13日76歳生涯を閉じる。

### 小林卯三郎氏（盲人）



明治20年9月6日兵庫県朝来郡生野町生まれ

る。

明治40年3月25日京都市立盲哑院高等科卒業

明治41年3月29日東京盲学校教員練習科卒業

明治41年4月30日京都府奉職

明治41年5月1日京都市立盲哑員に嘱託教員。

明治44年4月1日私立神戸訓盲院に奉職。

大正元8月1日私立淡路訓盲院に奉職。

大正9年4月8日私立奈良盲哑学校の校長

昭和6年3月31日県立移管より、教諭兼訓導に任ず。

昭和32年3月31日奈良県立盲学校退職

昭和32年10月1日京都府立盲学校講師

昭和33年3月15日同校退職

## 5. おわり

今回、奈良県の障害児教育の歴史の発表は初めての試みで、あまり専門的な資料もなく、レポートもまとめるに大変でした。

さらに奈良県のろう教育歴史を調査し、深めて行きたいとおもいますので、よろしくお願ひします。

## 6. 参考資料

「日本聖公会・奈良基督教会80年史」

「奈良県立盲学校創立50周年記念誌」

(昭和45年)

「小林卯三郎思い出記「この道一すじに」」

奈良県立盲学校(昭和45年)

「奈良県県報」

「特殊教育100年・奈良県記念誌」

「奈良県立ろう学校創立30周年記念誌」

「奈良県立ろう学校創立50周年記念誌」

「県民だより 奈良 2002年6月号」

注) \*1 奈良県立奈良ろう学校創立30周年記念誌

\*2 奈良県立ろう学校創立50周年記念誌  
同じろう学校であるが日時が違うことは不明。